

作成日：2022年6月10日

学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校 2022年度 学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：藤田 直人

1. 開催日時 2022年6月9日（木） 13:00～15:00
2. 開催場所 東京メディカル・スポーツ専門学校 校長会議室
3. 参加者 学校関係者評価委員（Zoomにて開催）

高井 豊	業界関係者（医療法人社団森山会リハビリテーション統括部長）
牛込 公一	卒業生代表（一般社団法人パラフェンシング協会理事長）
山本 洋美	保護者代表（柔道整復師科3年在籍）
森 章	高校関係者（拓殖大学紅陵高等学校 校長）
沼倉 英理	近隣関係者（行船管理有限会社 社長）
宇梶 義男	業界関係者（ムーヴアクション株式会社 代表取締役）

学校側参加者

関口 正雄	東京メディカル・スポーツ専門学校	学校長
菅原 大輔	東京メディカル・スポーツ専門学校	事務局長
舘脇 康郎	東京メディカル・スポーツ専門学校	教務部長
東 隆浩	東京メディカル・スポーツ専門学校	キャリアセンター長
藤田 直人	東京メディカル・スポーツ専門学校	学生サービスセンター長

4. 会議の概要
 - (1) 学校長挨拶
 - (2) 委員紹介
 - (3) 2021年度自己点検・自己評価結果報告
及び2022年度重点目標の説明
 - (4) 質疑応答

議事

(1) 学校長挨拶

本日は、学校関係者評価委員会にご出席いただきましてありがとうございます。また日頃、本校の学校教育にご理解ご協力いただきましてありがとうございます。

学校関係者評価委員会とは、これまでもご案内申し上げておりますが、文部科学大臣が直接認定する専門学校の学科、特に業界等との連携を基本的な認定要件として、全国の約4割弱の学科がこれまで認定を受けています。職業実践専門課程では、業界との連携が基本になっており、学校関係者評価委員会を開催することが必須となっています。自己点検自己評価結果等を踏まえてステークホルダーの皆様にも忌憚のないご意見を頂戴する場だととらえていただければと思います。

見ていただく観点の基本は、業界側の求める人材像に合わせた教育が行なわれていることはもちろんですが、その望まれる人材像に先行した形でその要件に合わせていこうとする姿勢ができていくかということが大切です。国家資格ですので一定程度カリキュラムは定まっておりますが、このカリキュラムも業界の変化に対応して変更されます。そのようなことを見越して学科の学習成果目標を人材要件に照らして見ていくことが大切です。もちろん国家資格の合格率、就職、退学率などがありますが、一番の根幹は業界の動きに沿ってこれから望まれる柔道整復師像、鍼灸師像、理学療法士像を踏まえて目標設定をすることがこの分野でも求められています。学習成果目標を達成するためにどのように工夫をしているかも含めて、さらに眼目でもある業界における実習を学校としてどう取り組んで現実的な成果にしていくかが大切です。知識が国家資格で認定実技やOSCEで技術的なものを確認し、その知識と技術を統合したものを現場実習で確認するという構成が機能として果たすようにすることが学科のマネジメントとして求められています。それらを達成するには、なによりも教員でありますので、講師の先生方も含めて学科一体となってどのように学習成果目標を達成するかマネジメントが大切です。業界との目標設定とカリキュラムと実習と教員のマネジメント等、これらがうまくいっているかということを中心に評価ということになります。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 委員紹介・学校担当者紹介

各委員と学校担当者紹介する

昨年度11月に人事異動があり、前任の松川から菅原大輔が事務局長をして着任しました。今後ともよろしくお願いいたします。

(3) 2021年度自己評価内容と2022年度重点目標説明

・学校概要の説明 学校の設立、学科、組織目的の紹介

概要等は、委員の方々に変更がないためPPの説明のみとする。

2、学習成果

(菅原) それでは、初めに学習成果についてご説明させていただきます。

●資格取得状況

資格	学科	合格率	全国平均
柔道整復師	柔道整復師科	80.7%	81.0%
はり師	鍼灸師科	95.7%	90.3 %
きゅう師	鍼灸師科	95.7%	91.4 %
理学療法士	理学療法士科	75.0 %	88.1 %

(菅原) 国家資格試験については、柔道整復師科と理学療法士科が全国平均を下回ってしまいました。

今年度の課題としてしっかりと改善に取り組みたいと思います。

●退学率

年度	在校生数	退学者数	退学率
2021年度	701名	41名	5.8%
2020年度	686名	41名	6.0%
2019年度	665名	59名	8.9%

(菅原) 2021年度は、5.8%で前年度から0.2%改善することができました。

●就職

卒業生数	174名	離職率 0名 0%	
就職希望者数	151名	【就職希望率】 86.8%	
内定者数	150名	【内定率】 99.3 %	【就職者率】 86.2 %
専門職内定者数	149名	【専門職就職率】 99.3%	
求人件数	995件	昨年 935件	

(菅原) 就職希望者は、1名を除き就職しています。この学生についても、就職支援を引き続き行っております。

次に自己点検自己評価の結果についてご説明させていただきます。今回は、評価が3になっている3つの項目について触れさせていただきます。

○3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか

滋慶学園のグループ校では、ほとんどの学校で卒業研究発表会が行われているが、本校では国家試験対策を優先しているため卒業研究が行われていません。改善策として、全員ではなく意欲のある学生を選抜して外部に向けて発表等を行いたいと考えています。

○7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報共有に取り組んでいるか

コロナの状況などがあり高校との連携など難しく、活動が思うようにできませんでした。しかし、今年度からは柔道のチャレンジカップを再開するなど、徐々にではありますが高等学校との連携を行っていこうと考えています。

○7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか

昨年度は、入学定員を集めることができませんでした。今年度は、高校との連携も含め SNS を活用した募集活動を活発に行うことにより、学生募集を効果的に行いたいと思います。

○10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか

これについてもコロナの影響なので活動を控えておりました。今年度については、活動を再開しており、前月はマラソン大会のストレッチのボランティアをしたところであります。

(菅原) ここまでで何かご意見があればお願いします。

(宇梶) 企業側が求める人材のニーズをしっかりと聞いていただき、ボランティア等でも実践的に使えるものを落とし込みできる仕組みあるといいと思います。

トレーナー活動などボランティア的な活動が多いが、企業としてはビジネスとして継続できるように動いている。やりたいたけでなくしっかりとした価値を生み出せるかに絞っていただいてもいいと思う。

(菅原) 入学してくる学生は、トレーナーを希望する学生も多い。今年度は、プロスポーツチームに就職させる取り組みにも力を入れている。

(東) 通常プロのチームトレーナーの求人は、先生方や講師の先生からの情報によるものが多いが、今年度は TSR と連携して直接学校としてコンタクトして、学生または卒業生を推薦するような仕組みを作るように考えています。

(森) 文科省とスポーツ省から 2027 年から中学校の部活を段階的に廃止する方向で提言がなされており、部活は地域のクラブチームに委託されることになりそうです。高校側も、中学で部活をやった子がこないという対策が必要になります。今後、地域社会にトレーナーとかコーチというニーズが増えると思いますが、メディカルさんではどのような対策を立てていますか。

(菅原) 以前から江戸川区には、中学校の部活動に学生トレーナーを派遣できないかとアプローチしていますが、実現には至っておりません。今後の検討課題にはなりますが、TSR と連携して在校生及び卒業生も含めて対策を立てたいと思います。

(宇梶) 先日、業界の方とのそのことについて話す機会があり、部活だけのサポートでは賃金的な面で問題があると話していました。時間的、金銭的に専業でトレーナーを雇うことも難しいのでその兼ね合いを考えていると聞きました。

(菅原) やはり通常のお仕事として収入を得るのは難しい面があるので、今後は新しい業態として考えられるのではないかと思います。学校として関係していければと思います。

(菅原) 次に 2021 年度の重点目標と結果についてです。

- | |
|--|
| <p>1. 教育 : EdTech を推進する</p> <ul style="list-style-type: none">①LMS に Teams を活用した ICT 化を進める②学習の個別最適化による学習効果アップ③VR や 360° カメラ等の導入 <p>2. 広報 : CRM/MA 広報を推進する</p> <ul style="list-style-type: none">①CRM/MA 広報を進める②YouTube 等の SNS を活用と OL の精度 ↑ |
|--|

数値結果について

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・入学者数 230名
結果 ⇒ 207名・中途退学者数 39名 (5.6%)
結果 ⇒ 41名(5.8%)・進級率 88.5%
結果 ⇒ 91.4%(203/222) |
|---|

(菅原) 2022 年度の重点目標です。

- | |
|---|
| <p>【2022 年度重点目標】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 新学科 (新規校)・新規事業を積極的に進める。
校舎を取得し新しい成長曲線を描く2. DX 化の推進 (教育・広報)
EdTech を推進し学習者中心の学びを実行する3. TSR と連携し、医療・スポーツ業界との産学連携を推進する |
|---|

- | |
|---|
| <p>【2022 年度数値目標】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 入学者数 230名2. 中途退学者 27名(3.9%)3. 進級率 92.4% |
|---|

(森) 新学科とは、どのような学科を計画されてますか。

(菅原) まだ検討の段階ですが、スポーツ心理などスポーツに関連した内容のものを考えています。

(牛込) 進級率のアップはどのようなことが要因ですか。

(舘脇) 進級率や退学率をなぜ目標としているかという点、我々の教育の中身が学生の価値に合っているのかを検証するためです。カリキュラムの中身を変えたり、昨年などはコロナ禍でオンライン授業が増えましたが、そのオンラインの中でも将来像や職業像がちゃんと失われないような業界との連携、業界訪問を入れながらモチベーションを下げないように学年ごとに動機づけ教育を行った成果と考えています。

(牛込) 小さなことの積み重ねが大切ということですね。

(舘脇) Z世代と言われる世代ですので、我々が受けてきた教育の在り方を変えていかないと学生は将来像を見失ってしまう危惧があって、そこに着目した部分と授業との意味付けを毎回変えていかないといけないと感じています。

(菅原) それでは、2021年度の学校関係者委員会を終わらせていただきたいと思います。

今後も引き続きよろしくお願いいたします。本日は貴重なご意見ありがとうございました。